



金箔を活かした まちづくり

金沢美術工芸大学名誉教授
黒川 威人

金沢箔青年会の人たちの訪問を受けたのは、私が未だ金沢大に在職中の2002年春のこと、大学で最も新しい専攻である環境デザインの代表として、教育・研究とともにその社会的な普及に懸命な頃でした。

その頃、大学の美術工芸研究所では世界の金箔調査を行っていましたが、その延長上で私の研究室を来訪される事になったようでした。学術的な研究の次のステップとして、今度は金沢箔を普及・振興させるためにデザイン面からの協力が欲しいということだったのです。

話を聞いた私は、これは環境デザインにとって良い教材になると感じました。考えてみますと、金沢の地名からして『砂金を洗った沢』が起源とされ、工芸の盛んな当地では金箔は伝統工芸のほとんどの分野に使われています。まして、現在国内で生産されるほとんどが金沢箔である事など、金沢のアイデンティティを語る上で欠かせないものである訳です。

では環境デザインとは何か。一言でいえば、それは様々な領域との関係性や地域性・歴史性を大切にする新しいデザイン理念です。ここに、金箔という地域固有の工芸素材を振興するというテーマが環境デザインにとって格好のテーマとして浮かび上がってきます。

早速4年生の前期課題に取り上げる事とし、青年会による箔押し体験を手始めにデザインワークを開始、2ヶ月後、青年会を招いてプレゼンテーションを行いました。この時の最優秀作品は「金の雨」と題し、無数の小さな金箔片を雨状に張ったテグスに吊るものでした。研究成果展を金沢市民芸術村で開催し、最優秀作品は実物を作って展示する事になっていたため、これは実際に芸術村の長い回廊を飾りました。フットライトを浴びて金の雨が煌めく様子は感動的なものでした。この成功に気を良くし、翌年は全学の学生対象に、金箔フォー

ムを開催しました。ほとんどの学科、専攻から多数の学生が参加し、青年会のメンバーとともに合宿形式で楽しみながら金箔について学び、かつ提案を行いました。この年も市民芸術村で成果展を行いました。この時は、ほとんどの提案が夏休み期間を使って実物を制作するという熱のこもったものでした。翌年は学生主体の活動としては最大規模の「箔祭り」が8月9日(箔の日)に東山の茶屋街で展開されました。この時のメインイベントは学生たちの作った神輿の上に青年会のメンバーが乗り、太鼓を叩きながら東山の町内を練り歩くというもので、はやしの音楽も学生による作曲・演奏によるものでした。この年はまた日仏協会からの依頼でフランスから世界的なカリリスト、ジャン・フィリップ・ランクロ氏を招き「日仏金箔フォーラム」を市民芸術村で開催しています。

こうした実績を背景に、金沢まちづくり市民研究機構のディレクターでもあった私は2005年までの2年間「金沢箔をまちづくりに活かすためのデザイン研究」をテーマに掲げ、学生や一般市民を含む青年会のメンバーとともに研究を行い、2年間で金箔振興に関する3つの政策提案を行いました。その1つが研究と情報発信を行う金沢箔技術振興研究所を箔打ち復興にゆかりの東山界隈に設置すべし、というものでした。それが今日の金沢市立安江金箔工芸館及び金沢箔技術振興研究所の設立となって実を結んだと私は考えています。

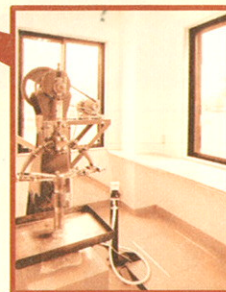
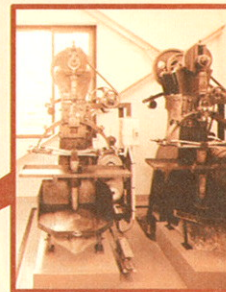
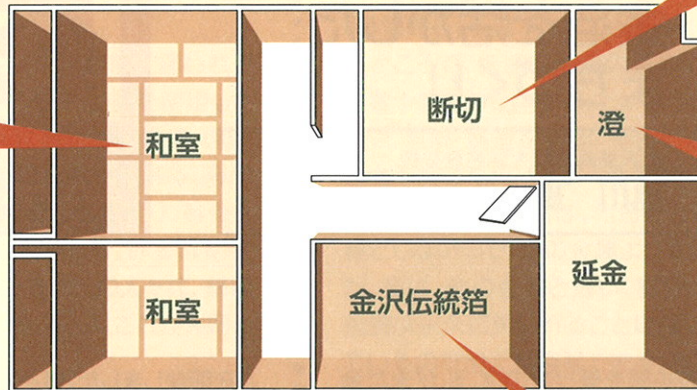
黒川 威人(くろかわ たけと) 略歴

- 1941年 富山市八尾町生まれ。
- 1964年 東京芸術大学美術学部工芸科(ID専攻)卒業。同年、三菱重工業(株)にて車両のデザインに従事。
- 1968年 金沢美術工芸大学産業美術学科工業デザイン専攻助手、助教等を経て1993年教授。
- 1976年 国際協力事業団、技術協力専門家兼務、エルサルバドル共和国へ出向。
同国立芸術大学設立計画を指導。
- 1982年 文部省科学研究費助成研究「景観要因の美学的考察」に着手。
以降、環境デザイン分野へ領域を拡大、スペインの洞穴住居、フランスのエコミュージアム等調査。
- 1994年 JIDA理事(1997年まで)、文部省大学設置審議会委員(1998年まで)。
- 1997年 金沢美術工芸大学大学院環境造形デザイン領域教授兼担。
- 1998年 日本デザイン学会副会長(2年の監査を挟んで06年まで)。
- 2001年 「開港記念モニュメント七色ガラスタワー」にて日本デザイン学会作品賞受賞。
- 2006年 金沢美術工芸大学定年退官、金城大学短期大学教授(2011年3月まで)。
現在:日本デザイン学会理事、金沢美術工芸大学名誉教授、金沢箔技術振興研究所運営委員会委員長。

平成23年4月8日 金箔技術振興研究所 金箔作業場がオープンします。



金沢職人大学校第2実習棟に併設される金箔作業場は、職人の技術の向上・継承、後継者の育成を目的とし、職人が主体となって運営する施設です。ここでは、金箔製造にかかる一連の工程を行うことができます。平成23年春から箔移し職人の養成も始まります。



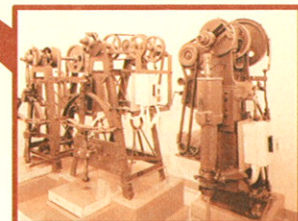
金箔技術振興研究所
金箔作業所



〒920-0046
石川県金沢市大和町1-1
(金沢市民芸術村内)
TEL:076-265-1461

金箔作業場に関するお問い合わせ

金沢市役所 クラフト政策推進課
TEL:076-220-2373まで



研究紹介

金箔技術振興研究所は、定期的に研究所の事業内容に関する記事をニュースレターに載せて情報発信しております。第2号からは、研究および調査を委託している大学や研究機関の研究者および研究室をご紹介することにしました。研究内容と研究者の専門分野などについて知っていただくことが目的です。

本号では、金箔の光学的性質について、物理学(物性)がご専門の金沢大学の 大角富康先生をご紹介します。

委託研究課題

金箔の性質に関する基礎研究 - 金箔の光学的性質 -

研究内容(目的)

金箔伝統箔(縁付箔)および断切金箔について、紫外線から赤外線に至る広範囲の波長の光の反射・吸収・透過特性を明らかにする



□ 研究者紹介：大角 富康 【金沢大学理学部物理学科卒(学術博士)】

□ 研究者所属：金沢大学理工研究域 機械工学類

□ 機械物理研究室 <http://www.ms.t.kanazawa-u.ac.jp/~physics/>

□ 研究分野：「X線照射したKCl単結晶の変形と発光」「KClの破断発光」「X線照射したアルカリハライド結晶における降伏過程の研究」「振動付加によるNaCl: X²⁺単結晶の転位と不純物との相互作用」などの基礎的な研究。

□ 研究室紹介：機械物理研究室では、物質の形状計測や原子配列の欠陥である転位について研究を行っています。私は主に物質の変形や破壊、強度などの機械的性質に重要な転位について超音波を使ったり、光を検出したりして調査しています。これらの物理的実験・測定技術を超薄膜の金箔に適用することで、金箔の光学的性質の定量的評価が出来ればと考えています。



金沢大学自然科学研究棟

研究室の風景

今井 康弘

Yasuhiro Imai

(株) 今井金箔

金沢箔は地元金沢を代表する伝統工芸品としての知名度は大きいですが、しかし業界の内情としては需要の低下、後継者不足等、大きな問題を抱えており、これらの問題に対して少しずつでも打開策を見つけていきたいと考えています。

趣味・特技
テニス、ボウリング
映画鑑賞



恩地 章弘

Akihiro Onchi

(株) 恩地金属箔粉

金沢箔は工芸都市かなざわのイメージの中で重要な位置を占めていると思っています。その意味で、この産業に従事する者として自助努力を続ける中で、そのイメージを守り育てる責務も併せ持つ必要を感じています。

趣味・特技
動物園、水族館巡り
LPレコード鑑賞

金沢箔

振興普及研究グループ スタッフプロフィール

当研究所は、金沢箔の振興と普及を目指す研究グループを設けています。月1回のミーティングを行い、金箔の普及、振興策を考えています。活動報告の代表作として、『かぐやの舞台創作プロジェクト』があります。金箔の新たな用途への使用を試みて、皆さんに親しんでもらう企画です。今回は、そのグループの皆様をご紹介しますと思います。

○名前 ○勤務先 ○箔への思い
○趣味・特技



木下 正樹

Masaki Kinoshita

(株) 木下紙店

金沢の伝統産業である箔は文化を感じさせます。仕事柄、いろんな所に行く機会が多いのですが「金色」は皆が憧れと羨望を持つ色です。そんな「金色」を発する本物の金を長い歴史の中で極限まで薄くする事を極めた「金箔」。金沢が誇れる伝統技術だと思っています。

趣味・特技
読書、映画鑑賞、空手
海釣り、旅

藤野 英明

Hideaki Fujino

(株) 高岡製箔 / (株) 箔座

辞書で「箔」と引くと、金属を薄く延ばしたものと書いてあります。しかし私は、金箔金属だと思ったことは一度もありません。金箔自体に作り手の表現が現れる貴重な製品だと思っています。出来上がった個性のある金箔を、一般の方々にも是非理解して頂きたいと思います。

趣味・特技
ランニング、ゴルフ

松村 謙一

Kenichi Matsumura

松村製箔所(自営)

400年以上続いている金沢の箔、でもそれは金沢に伝わってからの話。「黄金の国ジパング」という言葉は誰もが聞いたことがあると思う。日本に伝承されてからは金沢に伝わったそれ以上前から金箔は存在する。その金箔の技術はこの金沢で継承されて育てられ今現在がある。材料という伝統産業の中でも特別な存在であるが日本の文化の中ではなくてはならない存在でありその一翼を担ってきたのは事実である。この箔の技術を次の世代に残していくべきだと思う。その為には何が必要か今後どうあるべきか考えていきたい。

趣味・特技
テニスなど体を動かすこと
映画鑑賞 / 読書、アート

人と「金・銀・銅」の出会い

前回は、地殻中に存在する金や銀がいかに希少であり、貴金属と呼ぶにふさわしい金属であるかについて述べた。今回は金やその他の金属が地殻中でどのような形で存在し、歴史の中で人間といつどのようにして関わりを持ったかについて触れることにする。

人間と金属との出会いはおよそ1万年前と言われている。日本の年代では縄文時代であり、土器を使用していた頃である。金、銀、銅は地上において自然金、自然銀、自然銅として、その存在を見ることが出来る。自然金は通常、数～数十%程度の銀を含有しており、砂金として産出するものはすべて自然金である。砂金は比較的純度が高く、キラキラと輝くので古代の人々は、普通の砂とは異なる印象を持ったに違いない。これが人間と金属との最初の出会いと言える。

しかし、これをもって人間が金属を知ったことにはならない。人間が、本格的に金属と出会い、そしてそれを人間の知恵とした契機は「火」の存在と使用が不可欠である。例えば、落雷による山火事の現場には、普通の石とは違い、重量感があって光沢をもつ「特別の石」を見つけたであろう。この「特別の石」を別の硬い石でたたいても破碎されずに、むしろ適度に変形するなど、普通の石とは様子が違うことを知り、そこで、「火」の存在と普通の石とは異なる「特別の石」との関係を学習したものと想像できる。この「特別の石」が金属なのである。ほとんどの金属元素は酸化物、硫化物、その他の化合物

して地殻を構成している。古代の人々はこれらの金属元素を含む石の上で焚火をしたり、これらの石の粉末を燃えさかる火にふりかけて、赤や紫や緑色の美しい炎を得ると同時に、その跡には、やはり普通の石とは異なる「特別の石」を見つけたことであろう。

ところで、先述の砂金の場合は金属としての銀を数～数十%含んでいる。したがって純金よりも融点が低いので、溶解・鑄造するのに都合が良い。さらに、できた合金の塊はたたけばよく延びるし、適度の硬さを持っている。自然金の場合は、化合物と異なり、化学変化を必要としないので、他の金属よりその利用は遥かに早かった。金は、他の金属と違い、独特の黄金色を呈し、その色調は永久に失われることはない。さらに、延性に優れているので加工が容易である。きわめつけは、その希少性のため、富や権威の象徴として大切にされ、結果として今日に至るまで金属の王として君臨し続けることができたと言える。

地球が誕生してから46億年、人類の先祖が誕生してから500万年、現代人類が誕生してから10万年、金属を地球から取り出し、その使用方法を知ってから1万年、気の遠くなるような地球の歴史の中で、人間は加速的に知恵をつけ今日の文明を築いてきた。そして今では地球の存続すら脅かす存在になってしまったのである。

金箔技術振興研究所 所長：北川和夫

金箔技術振興研究所 ニュースレター No.2

〒920-0831 金沢市東山1丁目3番10号 金沢市立安江金箔工芸館3階
TEL:076-225-8941 FAX:076-225-8942
営業時間/9:00~17:45 休業日/毎週土・日曜日、祝日および年末年始
<http://www.kanazawahaku-giken.jp> Email:kanazawa-haku@wind.ocn.ne.jp



交通案内 ※当館には駐車スペースがございませんので公共交通機関をご利用ください。
・路線バス — 金沢駅から北陸鉄道バス・JRバスで「橋場町」下車徒歩5分
・城下町金沢周遊バス — 金沢駅東口のりば乗車「橋場町」下車徒歩5分
・金沢ふらっとバス(此花ルート) — 金沢駅東口のりば乗車「彦三緑地」下車徒歩8分

金箔貼り会議テーブル & 椅子セット



金箔技術振興研究所には、金箔貼りのテーブルと椅子が設置されています。研究所では実際に会議の際には、これを使用しています。

このテーブル&椅子セットは金箔の普及と振興を目的とした試験モデルです。

金箔の主な用途は金沢仏壇に代表される仏壇ですが、近年、若者の宗教離れやライフスタイルの変化に伴い、金箔の使用量が激減しています。そうした中、全国で99%以上の生産量を誇る伝統工芸品・金箔を守るために、箔職人を初めとした箔業界が協力し合い、金箔の利用範囲を広げようと日々努力しているところです。そこで研究所ではオフィスでの金箔の使用展開に向け製作したものが、この金箔貼りの会議テーブル&椅子セットです。合計630枚の金箔が使用されています。

研究所がある金沢市立安江金箔工芸館へ来館されたお客様には「うわ〜これは凄い!どこの御偉いさんになったみたいだね。」と大変喜ばれています。

本製品にご関心を持たれた方は、下記までご連絡下さい。

石川県箔商工業協同組合 (076-257-5572)